

## 令和5年度北海道立特別支援教育センター運営懇談会 議事録

1 日時：令和5年10月11日（水）13時30分～15時00分

2 場所：北海道立特別支援教育センター 大研修室

3 方法：ウェブ会議サービス（Zoom）による

4 出席者

(1) 構成員

青山 眞 二（北海道教育大学函館校特任教授）  
瀧澤 聡（北翔大学教授）  
岡崎 友香（北海道札幌視覚支援学校PTA会長）  
斎藤 規和（株式会社シムス代表取締役）  
佐々木 一好（札幌市立南の沢小学校長）  
吉野 光（北海道札幌北陵高等学校長）  
鎌田 典子（北海道手稲養護学校長）  
廣島 孝（北海道立心身障害者総合相談所長）  
赤坂 秀彦（北海道中央児童相談所長）

(2) 事務局：北海道立特別支援教育センター

今井 章文（所長）  
菊池 淳圭（副所長）  
高橋 利典（教育課長）  
越中 亮太（主査（総括））  
深町 友祐（主査）  
奥田 裕幸（主任研究員）  
檜山 正太（主任研究員）  
岡森 博宣（主任研究員）

5 議事

※運営懇談会次第に基づき、事務局から「令和5年度の運営及び令和6年度の運営の方向性」、「各事業の令和5年度の実績及び令和6年度の実績の方向性」、「令和5年度の予算及び令和6年度の予算の方向性」について説明し、意見交換を行った。

（○ 構成員の意見等 ● 事務局の意見等）

- 巡回教育相談について全14振興局管内に会場地を拡大した理由を伺いたい。
- 全ての管内で巡回教育相談を行うことによって、来所での教育相談に比べて相談者がより相談しやすい環境を整えられると考え、会場地を拡大した。
- 巡回教育相談のフォローアップを開始した経緯や今後の取組の方向性について伺いたい。
- 教育相談で助言を行う中で、相談を継続的に行うことにより、支援体制を整えたり、多様な学びの場の選択に結びつけていったりすることをねらい、フォローアップを行うこととした。巡回教育相談から一定期間後に電話教育相談や遠隔教育相談を行ったり、次年度の巡回教育相談につなげていったりするなどして、きめ細やかな対応を行っていくことを考えている。
- 地域の教育相談体制の充実を図るための取組が企図されているか伺いたい。
- 教育相談体制充実モデル事業を実施し、地域における教育相談に携わる人材の育成を支援する取組を行っている。本事業の取組を踏まえ、市町村における教育相談の体制整備の状況について分析し、地域での教育相談体制の構築を支援していく方法を検討していく。

- 心理検査の実施については、資格がないと実施できないというものではないことを踏まえ、アセスメントについて取り扱う研修講座等を、今後実施する考えがあるか伺いたい。
- 今年度は、検査の実技を取り扱う内容ではなく、検査結果を踏まえ、適切な指導や必要な支援について検討する内容を取り入れた研修を実施しているところである。いただいた助言を参考に、来年度の研修事業について検討していく。
- 受講を希望したが、研修を受講できなかった者への対応について伺いたい。
- 学校事情により受講が難しい受講者には公開講義を紹介するなどして対応している。
- ICTの利活用をテーマとする研修講座を実施する場合における、基礎的な内容と発展的な内容の実施について伺いたい。
- 基礎的な内容については、特センライブラリの動画コンテンツなど、オンデマンドで研修できる体制を整えるとともに、公開講義の充実を図っているところである。受講者のニーズに対応できるよう、対象を明確にした研修事業について検討していく。
- SNSの活用について、幅広い世代が活用できるよう発信媒体を増やし充実させてほしい。
- 発信する情報の内容や届ける対象に応じて、適切な発信媒体を選択していくことができるよう検討していく。